

卒業生の進路

「誇りをもってここを発つ」

進路指導主任 米倉 秀和

卒業生の皆さん、そして保護者の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんと共に就職・進学ロードを走り、こ

の目を迎えられて感無量です。これから瀬戸内を旅立つ人、古仁屋に残る人、それぞれの道があると思います。そこで、皆さんには、これまで以上に瀬戸内に誇りを持ってもらいたいと思います。瀬戸内、こと古仁屋はいわゆるスモールタウンと呼ばれます。個人的には、郵便局、銀行、Aコープなど、生活に必要な

ものがまとまっているコンパクトシティ。古仁屋が気に入っています。一方で、大都市に比べれば、不便、小さい、人が少ないなど、マイナスイメージが上がってくる事も事実です。ここでアメリカはウィスコンシン州にあるスモールタウンに住むアメリカ人中学生の言葉を紹介したいと思います。「スモールタウンは、私み

進学先決定	
短期大学	学部・学科・コース等
鹿児島県立短期大学	経済
鹿児島純心女子短期大学	英語
鹿児島純心女子短期大学	英語
鹿児島女子短期大学	教養
鹿児島女子短期大学	教養
香蘭女子短期大学	食物栄養

就職採用内定	
事業所	職種
日産自動車 株式会社	技能職
大成化工 株式会社	技術職(製造設備の運転・修理等)
株式会社 エイコー	空港貨物取扱業務
株式会社 東京一番フーズ	飲食店(ふく料理、和食)の調理及び接客
鹿児島王将 株式会社(餃子の王将)	調理・接客
株式会社 タカミヤ	店舗スタッフ
リハビリティウェルネス 株式会社	フィットネス施設接客スタッフ(カープス鹿児島荒田)
西南水産 株式会社	養殖作業員
学校法人近畿大学水産養殖種苗センター	魚類飼育員
陸上自衛隊	自衛官候補
公務員	自衛官候補

合格・内定状況

	内定者数
四年制大学	7
短期大学	6
専修学校等	16
就職(学校ルート)	9
就職(縁故)	0
公務員・その他	2
計	40

平成29年度卒業生 進路内定状況(2月9日現在)

進学先決定	
専門学校(高等技術専門学校を含む)	学部・学科・コース等
KCS鹿児島情報専門学校	情報システム科
神村学園専門学校	理学療法
横浜こども専門学校	
専門学校麻生看護大学校	看護科
尼崎健康医療財団看護専門学校	
奄美看護福祉専門学校	看護科
奄美看護福祉専門学校	看護科
奄美看護福祉専門学校	ビジネス情報科
福岡医療秘書福祉専門学校	診療情報管理士科
福岡医療秘書福祉専門学校	診療情報管理士科
福岡医療秘書福祉専門学校	介護福祉科
鹿児島医療福祉専門学校	歯科衛生学科
鹿児島歯科学院専門学校	歯科衛生科
沖縄プライダ&ホテル観光専門学校	ホテル観光科

大学	学部・学科・コース等
大阪芸術大学	演奏学科
別府大学	文化史学部文化財学科
第一工業大学	情報電子システム工学科
多摩大学	グローバルスタディーズ学科
鹿児島国際大学	国際文化学部
鹿児島国際大学	福祉社会学部
近畿大学	産業理工学部・建築デザイン学科

たいな作家志望の中学三年生には、最適な場所かもしれない。そもそも都会における情報というのはすべてが断片で、全体としての像を結ばないでしよう？ でもこのように小さな町では、ひとりひとりの人生の全体というものが見えるんです。この町の人が喋る言葉には、その人ならではの人生や、静かだけれど確かにその人以外ではありえないような重みがあるんです」この言葉はそのまま瀬戸内にあてはまるのではないでしょう。か。不便さや寂しさに負けそうになる毎日を、自前の努力によって支えて生きているからこそ、そんな自分を、自信を持って他者へ差し出すことができます。都会で生きる人々と比べ、どちらが、よりタフで成熟したまっとうな人生を力強く歩んでいるのか、それは言うまでもありません。

年度当初から一貫して、「先生方の力を大いに利用しよう。そのためには先生方を感じさせることが不可欠です。」というメッセージを生徒の皆さんに送り続けてきました。そして感動させてくれました。それは、皆さんが離島のハンディをものともせず、大きな目標に向かって学業に励み、学校行事を盛り上げ、何よりも、先生方を巻き込んで、

毎日を楽しんだ事に他なりません。少なくとも私は皆さんから寂しさを感じたことはありませんでした。学校行事における盛り上がりを見るに付け、古仁屋高校の熱は健在なりという思いに至ったものです。

卒業生の半分近くは、将来は奄美に帰ってくるつもりだと聞いています。皆さんの郷土愛と明日への情熱が炸裂し、世界に、そして奄美に素晴らしい未来をもたらすことを祈っています。

編集後記

編集に際し、これまでの学校行事・部活動・PTA活動等を振り返り、生徒達の成長を感じる事や先生方、保護者の皆様の協力あって、充実した高校生活が送れていることを改めて感じる事ができました。

このPTAだよりには写真も多く掲載されているので、少しでも思い出に残る事ができればと思います。

平成三十年三月一日 発行
発行元 古仁屋高校PTA
編集 PTA文化部